

# 創建 そうこん

2013・7・19 VOL. 48 NO. 2 (通巻147号)

- 卷頭言：湯本長伯・1  
 平成26年度卒業研究テーマ・2~3  
 新任紹介・3  
 長期海外出張報告：Sanjeev PAREEK・4~5  
 日大工学部の思い出・6~7  
 建築史学会賞受賞記念：速水清孝・8  
 インド留学記②・9  
 アーキテクトコース見学会／現場見学会・10  
 学術論文・発表論文／教室ニュース・11  
 教職員名簿・12
- 日本大学・工学部・建築学教室 ■

本年度より工学部建築学科教室に加わりました湯本長伯です。1997年から2003年まで大学院の非常勤講師として、現東京大学総合研究博物館教授の松本文夫さんと授業を担当していました。若井教授に呼んで戴いてやって来て、当時一番驚いたのは院生のみんながもの凄く純真で、何か間違ったことを教えると、そのまま信じ込んでしまいそうで、当時教えていた慶應義塾大学SFCの院生と比べ、より真剣により真摯により優しく授業を楽しまないと…と、2人で話していました。

3月まで居た九州大学では、九大全体のアート&デザインを研究センターとして統括する立場で、それを「产学連携・知的財産」活動を通じて行うという位置づけでした。つまりそれまでの建築都市インテリアの研究と実践に比べ、随分広いことをやっていた訳です。しかしやっているうちに、全てが繋がっていて相互に作用していることに気づき、随分と仕事の幅が広がりました。产学連携とは、異種異質なものの連携融合によって、新しい知を生産することです。そしてその知を生かして、イノベーションと言われる新しい変化=革新を起こし事業・産業を発展させ、結果として地域を幸福にすることです。これは今後も続けて行きますが、少しは私のお蔭で九州の地元も、幸福になったかなと思います。私の専門分野は、建築に限れば建

築計画と建築設計で、計画としては「設計情報・設計方法」、設計としては「教会、美術館・博物館、学校らしくない学校」に、主に取り組んでいます。設計情報・設計方法については、半世紀近くの研究歴があり、アレグザンダーの理論等は私たちのグループが日本に紹介しました。また理論だけでなく、実践からフィードバックしながら研究を深めているので、多くのプロジェクトを抱えています。設計としては、ここ5~6年なのですが、パートナーの影響も有って、ヨーロッパ建築の根底を成

誰か分析してくれると嬉しいのですが…。現在は、「都城市民会館・保存活用再生コンペ」を進行中で、その次は「熱海美術館リノベーションコンペ」になりそうです。こうしたプロジェクトは、計画や歴史、そして実は構造や設備とも深く関係しますので、それぞれの専門の先生方とできるだけコラボレーションをしていきたいと考えているところです。

最後に、私はインテリアプランナーやインテリアコーディネーターの制度創出や試験の実施に関わり（一級建築士もですが）、特にインテリアコーディネーター／ICは二次試験の設計製図の問題を27年間も作っていました。IPもICも受験者が激減していますが、インテリアコーディネーターだけは、福岡インテリアコーディネーター協会会長・九州インテリアコーディネーター協会協議会会長、そして日本インテリアコーディネーター協会協議会会長として、これからも発展に尽力して行きたいと考えています。インテリアの勉強をしたい人、資格に挑戦したい人を歓迎します。

湯本研究室の名称は、「建築文化・社会構造設計 研究室」と言います。つまり幅は思い切り広いので、どのような研究テーマでも、どのような就職相談でも、気軽に相談して下さい。9号館311号室で、模型に囲まれて座っていますので、是非のぞきに来て下さい。



写真1 想い出の博多祇園山笠

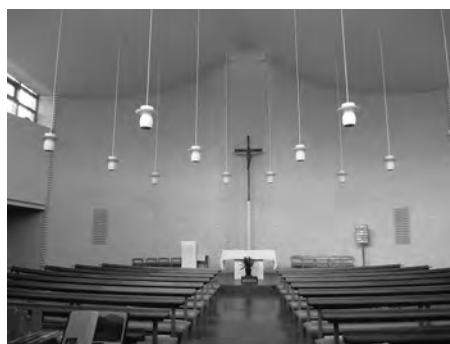


写真2 福岡で設計した笹丘教会



写真3 海の見えるアトリエで設計

## 平成26年度 卒業研究テーマ一覧

建築ゼミナールを受講する学生は、ここに記載されている卒業研究テーマを参考のうえ、所属する研究室を選択しましょう。

### 計画・環境系

#### ■都市計画・設計

**三浦 金作 教授** [論文・設計]

**都市計画研究室（都市・環境デザイン）**

1. アーケードのある街路の空間構成に関する研究
  2. 探索歩行時の注視に関する研究
  3. 街路景観に関する研究
  4. 都市公園に関する研究
  5. 広場・オープンスペースに関する研究
  6. 都市景観に関する研究
  7. 西欧都市構造に関する研究
- 〔設計〕都市デザイン・まちづくり・建築設計

**土方吉雄 准教授** [論文・設計]

**都市計画第一研究室**

1. 都市の土地利用に関する研究
  - 1) 土地利用の更新過程
  - 2) 中心市街地
  - 3) 都市マスターplan
2. 住宅・居住環境整備に関する研究
  - 1) 都心居住・住宅マスターplan
  - 2) 環境共生住宅地
  - 3) 子どもの遊び環境
  - 4) 居住地の防犯設計
  - 5) 街並み景観ワークショップ
3. 都市設計・まちづくり・建築設計

#### ■建築計画・設計

**湯本長伯 教授** [論文・設計]

**建築文化・社会構造設計研究室**

1. 建築計画全般に係る設計情報・設計方法研究
  2. 深い社会文化性を持つ建築種別（教会・美術館博物館等）の設計実践
  3. 建築都市インテリアの空間文化を届けるエンドユーザー教育研究
  4. 産学連携・異種連携による知の生産と活用研究
  5. 知的財産権を包含する知的資産の形成と活用研究
  6. 知の蓄積と活用を設計する哲学（知の科学）研究
  7. インテリアコーディネーションの資格・職能研究
- 〔設計〕伝統的木造建築物の類別再生・活用設計（事例調査+再生設計）  
美術館の類別再生・活用設計（事例調査+再生設計）  
キリスト教会の類別再生・活用設計（事例調査+再生設計）  
(いずれも、具体例でも概念設計でも良い)

**松井壽則 准教授** [論文・設計]

**建築設計計画研究室**

【住居系】

- 1) 住宅改修・改造（リフォーム）に関する研究
  - 2) 公営集合住宅に関する調査研究
  - 3) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究
- 【施設系】
- 1) 通所型在宅サービス提供施設に関する調査研究

- 2) 特別養護老人ホーム・介護型老人保健施設の計画に関する研究
- 3) 保育園・幼稚園の計画に関する研究
- 4) 特殊学級、養護学校に関する調査研究

#### 【地域系・その他】

- 1) 安積開墾の耕地と宅地に関する調査研究
  - 2) 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究
- 〔設計〕上記テーマに関する設計

**浦部智義 准教授** [論文・設計]

**建築計画研究室**

1. 劇場・コンサートホールに関する多角的な研究
  2. 文化・医療など施設設計・評価に関する研究
  3. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究
  4. 建築・都市における空間知覚・認知に関する研究
  5. 二地域居住や中山間居住に関する研究
  6. 環境デザイン・バシップ建築に関する研究
  7. 震災後の復興・復興住宅・まちづくりに関する研究
- 〔設計〕社会的効果・計画手法・空間演出など何らかの説得力のある提案

#### ■歴史・意匠

**速水清孝 准教授** [論文・設計]

**建築歴史意匠研究室**

1. 福島県の建築・都市を中心とする東北地方の近代に関する研究
  2. 福島県の歴史的建造物の発見・維持・保存に関する活動
  3. 日本の近代を中心とする建築の歴史に関する研究
  4. 建築家を中心とする建築技術者の職能と法制に関する研究
  5. 建築技術者の人物史に関する研究
  6. 建築家の作家論に関する研究
  7. 建築技術の歴史に関する研究
- 〔設計〕持続可能な社会に向けたプロトタイプとなり得る建築、ないし特殊解としての建築の提案

#### ■環境工学

**濱田幸雄 教授** [論文]

**環境工学研究室**

1. 生体音響信号の測定・分析手法に関する研究
2. 音響模型実験による応急仮設住宅の遮音性能改善手法に関する研究
3. レザードップラー振動計の応用技術に関する研究
4. 音楽練習室の音響特性に関する研究
5. 床衝撃音の評価方法に関する研究

### 構造・材料系

#### ■構造

**浅里和茂 教授** [論文]

**鋼構造デザイン研究室**

1. 耐震改修における補強部材の弾塑性FEM解析
2. 東北地方太平洋沖地震で被害を受けた鉄骨造体育館の振動解析
3. 鋼構造建築物の耐震診断手法に関する研究
4. 東北地方太平洋沖地震の被害及び地震動に関する研究
5. 建築物の耐震化データベースの構築

## 6. 鉄骨製作における品質管理に関する研究

千葉正裕教授〔論文〕  
日比野巧助教〔論文〕

### 振動システム研究室

1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
2. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
3. 建物の近似振動解析法に関する研究
4. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
5. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
6. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
7. 各種構造解析プログラムの開発

G・ブンタラ・ステンリー准教授〔論文〕  
コンピューテーション応用力学研究室

1. 遺伝的アルゴリズムを利用した建築構造物の最適化に関する研究
2. 無重力状態で自己釣合い・自己展開できる構造物の研究
3. 建築構造物と鋼管杭による地盤沈下防止・免震効果の研究
4. 住宅のため低コスト・低メンテナンス免震・制振装置の研究開発
5. 3次元地盤・構造物の地震時挙動シミュレーション的研究
6. 地盤、基礎と構造物の相互作用を考慮した大型模型振動実験と解析的研究
7. 3次元CADと構造解析ツールの統合化に関するソフト開発

野内英治准教授〔論文〕  
空間構造システム研究室

1. 空間構造に関する研究
2. 構造物の非線形解析に関する研究
3. 構造物の崩壊解析に関する研究

4. 各種プログラミング言語を用いた構造解析ソフトウェアの開発
5. 耐震設計法に関する調査・研究

### ■材 料

出村克宣教授〔論文〕

齋藤俊克助教〔論文〕

### 建築材料学研究室

1. 繊維補強ポーラスコンクリートの開発
2. 竹補強コンクリート・モルタルの開発
3. 石灰石を骨材とするコンクリートの性能改善
4. 鉄筋コンクリート構造物の補修システムの開発
5. 高機能性塗料の開発
6. 遮熱材料・システムの開発

サンジェイ・パリーク准教授〔論文〕

鉄筋コンクリート(RC)構造・材料研究室

1. 自己修復型(インテリジェント)コンクリートに関する研究
2. 建築用内装材・外装材の防火性能に関する研究
3. 新規防せい剤及びシステムによるRC構造物耐久性改善
4. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた柱・梁接合部に関する実験・解析
5. RC構造物の耐震補強に関する実験・解析
6. 放射能による汚染物格納のため超重量コンクリート容器の開発
7. インド歴史的石造建造物・インド住宅の調査研究

# 新任の先生

## 教授湯本長伯

担当科目：建築構法



この4月より着任しました【ゆもとながのり】です。2003年まで大学院非常勤講師であったので、ちょうど10年振りに戻って来ました。郡山は、宇都宮と仙台の間に在る交通の要衝でもあり、日本大学工学部は宇都宮大学と東北大の間に在ってこの地を支えている、地域にとってとても大切な大学であり、あったと思います。それだけに先の震災と原発事故は、地域にとっても大学にとっても残念なことでした。

私の専門は建築計画と建築設計で、計画としては設計情報・設計方法、設計では教会、美術館・博物館という限られたものを設計しています。しかしこの両者とも、実は人が集まって何かをする建築であるので、その一部を実現する建築として、(学校らしくない)学校の計画と設計にはずっと関わってきました。

建築構法の授業では、空間をつくるものでありながら、実際に造るのは床壁天井等のモノであるというパラドクスを踏まえ、モノとしての建築の成立ちを分かり易く教えていきたいです。後期からは設計演習など、より専門に近い授業も担当することになりますが、「分かり易く楽しい」ことをモットーにやっていきますので、宜しくお願いします。

## 非常勤講師鈴木勇人

担当科目：建築設計演習II



この度、非常勤講師という大役を担うことになりました鈴木勇人と申します。現在、福島市にある(有)鈴木設計の代表取締役として、公共から民間まで幅広い建築活動を展開しており、「建築設計からコミュニティデザインへ」の理念のもと、ふれあいや対話を大切にしながら、ひとりでも多くの人が笑顔になり、街が元気になるお手伝いができるよう日々研鑽をしています。

なかでも、飯坂温泉再生の鍵を握る「旧堀切邸」では、歴史的かつ民族学的価値のある豪農豪商の建造物群を保存活用しながら、地域交流や文化伝承ならびに観光交流の3柱をテーマに全体整備をしました。これは、プロポーザルから設計・監理に至るまで、あらゆる専門家(技術職人、ランドスケープアーキテクト、ライティングデザイナー等)とのコラボレーションにより実現したものであり、新しい飯坂温泉の拠点として地域住民や観光客に親しまれています。

最近では、国指定・宮畠遺跡公園「じょうもぴあ宮畠」の全体設計ならびに体験学習施設の設計にも取り組んでおり、学生の皆さんにも実際の設計活動や工事監理を体感して頂く機会があれば幸いです。

## 日本大学 長期海外派遣報告 オランダ、アメリカへの滞在日記

准教授 Sanjay PAREEK

### ■オランダ編

#### ●オランダと福島の架け橋となったファン・ドールン氏

日本からオランダに行く前は、日本の土木・建築技術が世界一だとずっと思っていた。それがオランダに滞在して、この国の最先端技術力は日本の土木・建築分野に負けずに競い合う能力を持っていると感じた。日本は地震多発国家で地震が発生しても構造物は殆ど被害受けず存在しているが、オランダは海拔以下に存在する都市に、しっかりしたインフラが存在することに感動した。歴史を溯れば、郡山とオランダは安積疎水を計画・設計を立案したファン・ドールン土木技師により結ばれている。ファン・ドールン氏は、私が滞在したデルフト工科大卒で1872年に来日以降港湾・河川の整備・設計作業を大過なく務めた。このデルフト町にあるデルフト工科大学 (TU Delft) に私は2012年1月から1年間滞在することになった。オランダの河川整備及び低地の洪水を防ぐための最も発達した技術の象徴である風車を利用する知恵は、世界中で着目されている。オランダの中でもっとも数多く古き時代の風車が修復保全されて残っている世界遺産のKinderdijk (キンダーダイク : kinder : 子供 dijk : 堤防) は、古代のオランダの農村民が住居にした所であり、風車は運河水の移動に限らず、家事の色々な作業にも組み込まれている。国土の約30%程度が海拔以下のオランダにおいて、低地の排水システムは最も重要であり、運河の水面が一定以上の高さに到達した際に風車を利用して川に排水する役割を担っている。オランダは過去に何度も洪水の被害を受けたため、この様な古代の知恵は生活するためには欠かすことができない。

#### ●オランダの初印象

初のオランダに対する印象は、インフラ整備が進んでいて、全国土面積は九州程度と狭い割に、全然広く感じるということであった。この狭い国に生活する人口約1700万人のオランダ人は、世界一の身長を誇り、男性の平均身長183.7cm、女性は170.7cmと大型であるが、国の狭さを感じさせない。この身長の秘密は、オランダの農産物（乳製品、肉や食物）にある。オランダの海拔以下の土には塩分が多く含まれているため、単純に作物を栽培できない。そのため、広大な畑にミネラル分を多く含む家畜の餌になる良質な草を生やして、その広大な土地で放し飼いの家畜を育てる事によって、良質な牛肉・豚肉・羊肉が生産されている。ここで育てられた牛の乳製品（チーズ、バター、チョコレート）はヨーロッパにおける生産量のかなりを占める。GOUDA (発音:ハウダー; 意味:ゴールド/クリーム色) チーズがオランダでは最も有名で大変人気がある。この独特な土の性質を利用することにより、チューリップ栽培が世界一の産業に発達した。裏話として、トルコの大使が17世紀頃オランダにプレゼントした数個のチューリップの球根から始まったという。さらに、塩分を含む土の改良技術が世界一で、ビニールハウスではその塩分取り除いた土を利用して、農作物が生産されている。オランダのビニールハウス栽培技術が日本でも参考にされ、活用されている。このように、最先端技術力を備えているオランダは元々農村国家である。オランダの知恵は古くからのものであり新しいものはない。

#### ●オランダ語と食文化

オランダ語 (Dutch) は喉の奥を絞り上げて鳴らすように話す。発音の難しさに音を上げて、なかなかオランダ語を習う気にならなかった。オランダ語はドイツ語に近い言葉だと思うが、オランダ人でドイツ語を積極的に話す人が少ないので、やはり第二次世界大戦の影響だと思う。しかし、オランダ語は言語的にはかなりドイツ語に近い言葉だけあって、ドイツ人とオランダ人は、お互いに言葉を聞くだけならほとんど分かると言いう人が大勢いる。

オランダ人も第二次世界大戦でかなり被害を受け、殆どの食文化を含めて多くの財産・人材を失った。そのせいかオランダ人の食事は非常に素朴で、朝と昼は殆どの人はパンに野菜・チーズ・ハムなどはさんで食べ、飲み物としてはヨーグルット・牛乳またはスープで済ます。夕食だけは必ず家族と素朴で温かい家庭料理を食べる。要するに、一日に一回だけ温かい食事を摂るのである。オランダ人にとって特別な食べ物としては、季節のものであるが、ニシンの酢漬けに刻んだ生のタマネギをたくさん挟んだものがある。季節になると、しつぽつかみで口に流し込む風景が街のあちこち見受けられる。日本から行った私には、これはこれで抵抗なく食べることができた。「オランダの船乗り人」が船上で良く食べていたものである。まあ、驚くほど美味しいものではなかった。オランダには他に誇れる料理はほとんどないが、寒い冬に食べるエルテン・スープはオランダの忘れがたい味のひとつである。昔から各家庭の暖炉



Photo 1 Kinderdijk



Photo 2 Tall Girls of Holland



Photo 3 BBQ Party @Delft Home



Photo 4 研究室院生とゼミナール



Photo 5 自己治癒について講演

で作っていた料理の一つである。農家の人が重労働を終えたあと、大量のエネルギーを補給するためのスープである。えんどう豆をすりつぶし、ベーコンやソーセージなどと一緒に長時間コトコト煮たスープである。とにかく、ふうふういいながらいただくのは、本当にこたえられないほど美味しい。このスープはフォークを立てても倒れないほどコッテリしているため、一杯だけで十分な栄養が摂れる。

### ●オランダの季節・イベント

オランダも日本と同様で祭りごとが多い国である。オランダの新年は、すさまじい爆竹の音や豪快な花火で明ける。新年を迎える前日からのカウント・ダウントゼロとなったその時、オランダの街中で、爆竹が空中や道端を飛び交う。こんなとき、若者が多く集まる広場は危険極まりない思いをすることが多々ある。中には、他人の家の郵便や新聞受けから家の中に爆竹を投げ込む不届き者も居る。これに比べると日本の正月は年越しそばを食べて、静かに神社参りしながら新年を迎える、こちらにいるときは日本の正月が大変恋しく感じられた。4月になると、いよいよ世界一の生産量を誇るチューリップを始めとする花々が、公園として有名なキューケンホフ公園を訪れる人々の目と心を楽しませてくれる。日本の桜の満開風景と同様にキューケンホフ公園の周囲に広がるチューリップ畑全体が、色取りみどりの花々で満たされる。4月の下旬、わずか2週ほどしか続かない最高の風景を見るのは、オランダに住んでいる人の特権と言えるかもしれない。

本年4月30日は、先日退位したオランダ女王誕生日のため、オランダ中が王室オランダ工家（オレンジ家）の色、オレンジに染まった。前夜祭はアムステルダムで、誕生日はデンハーグで一晩中、足の踏み場がないほど込み合った。デンハーグ宮殿周りの広場では、国民全員が飽きれるほどビール飲んで祝いパーティモードで盛り上っていた。

### ●私から見たオランダ人

オランダ人は、よく「ケチ」といわれ、日本の割り勘（Let's go Dutch/Dutch treat：オランダ人の勘定）の習慣の発生の地でもある。確かに堅実な国民であり、夏休みの旅行もキャンピング・コーチというのか、居住スペースとなる車両を乗用車の後ろにつけて、陸路、ホテル代を節約して旅行する人が多くいる。ドイツ人も似たようなところがあり、夏、ヨーロッパの高速道路を走っていると、たくさんのこうした車がヨロヨロと走っていて、ナンバープレートを見ると大体オランダ人かドイツ人。こうした車は、来られた街の側にしてみると、その土地に金は落とさない一方で、ゴミだけは置いて行くことになるので、嫌がられている。それを理由に、ヨーロッパの街によってはこのようなキャンピング・カーやコーチの乗り入れを禁止しているところもある。またオランダでは、マリファナとかのソフトドラッグ、売春も合法化されている。オランダ的に考えればそれは個人の責任でやっていることで、なるべく認めてあげましょうという文化。日本で「オランダは治安悪くない？」と良く聞かれるが、ヨーロッパの中でも大変安全な国であると実感した。それを象徴する訳ではないが、世界で一つしかない、平和宮（蘭：Vredespaleis）はオランダのデンハーグにある。

### ■アメリカ編

オランダ滞在期間中9月から2ヶ月半、旧マサチューセッツ州会議事堂（英：Old State House, 1713年築）という観光スポットに近いところに滞在した。この建物は、ボストンで最も歴史のある公共の建築物であり、当時の英國がアメリカ本土をコントロールする拠点であった。ここではマサチューセッツ州ボストン市にある私立大学マサチューセッツ工科大学、通称、MIT（エム・アイ・ティー）にProf. Hamlin Jennings先生を訪ねCSH Group (Concrete Sustainability Hub) の研究室に在席した。ノーベル賞受賞者を多数輩出している（2010年まで77名）MITキャンパス内の雰囲気は完全に国際的で、世界中から各国トップクラスの頭脳を持った学生や研究者が集まって教育・研究を競い合うオリンピック競技場に見えた。私はProf. Roland Pellenq先生の下でコンクリートのNano-indentation法による物理的性質について学ばせて頂いた。滞在期間中アメリカ大統領選挙、ハローウィーンパーティなどめったにできない体験をした。オランダへ帰国する寸前にハリケーン・サンディがアメリカを直撃し、東海岸は悲惨な災害に見まわれた。ボストンでも最大風速80～100km/h

(22～28m/s) の強風が吹き荒れた。このようの中、映画「マトリックス」のワンシーンのように、体を地上と水平になるような仕草をして遊んでいる豪快な若者を海岸で見て唖然とした。アメリカは軍事大国でありながら、自然の力に対しての脆弱さが浮き彫りになった。一説によれば、サンディが襲来したのはオバマが選挙キャンペーンで沈みかけていた時だという。オバマ大統領のハリケーン・サンディ被災者に対する適格かつ迅速な対応が評価されて、再選できたと言われている。やっぱりピンチをチャンスに変えるってこの様なことでしょうか。

### ■おわりに

今回長期海外出張中TU DelftやMITで学んだことは大変貴重な経験であり、私の今後の教育・研究活動に生かしていきたいと思います。最後になりますが、この機会を与えて下さった日本大学工学部の関係者各位、特に建築学科教員の皆様にこの場を借りて心より御礼を申し上げます。



Photo 6 Peace Palace@Den Haag



Photo 7 Old State House@Boston



Photo 8 Skyline & Apartment Tower



Photo 9 MITにて

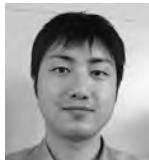


Photo 10 With Prof.Pellenq@MIT



Photo 11 Farewell Party@TU Delft

## 北桜のもとで…日本大学工学部建築学科の思い出



**阿部 純也**（土方研究室 大学院生）  
進路先：鹿島建設株式会社 建築施工系  
出身校：宮城県仙台第三高等学校

私は、主に郡山駅前を対象とし中心市街地活性化について研究していました。住民主体のまちづくりに向け、NPO法人まざっせKORIYAMAや郡山市まちなか整備課の皆さんと地域住民参加型のワークショップを開催していました。わかりやすい資料作りやまちを構成する様々な要素の現況調査、地域住民の意見のまとめ等大変でしたが、様々な分野の大変多くの人々と交流でき、貴重な経験を積ませていただきました。

現在私は、超高層オフィスビルの現場で施工管理職として「モノづくり」の最前線にいます。新入社員のため仕事についてはわからないことばかりですが、多くの人々の協力を得られて初めてモノづくりは実現できるのだなと実感させられる日々を過ごしています。

建築学は幅広く、全てが人々の生活に直結し、役に立てる分野です。皆さんには大学でしか学べないことを大いに学んでいただき、自分が進みたい道に全力で向かってほしいと思います。



ワークショップの様子



**今村 翔太**（千葉研究室 学部生）  
進学先：九州大学大学院人間環境学府  
空間システム専攻  
出身校：福岡県立八女高等学校

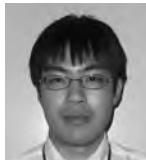
私にとって初めての一人暮らしは故郷から遠く離れた東北の地での生活となりました。知らない土地だったということもあり、生活を始めた頃は不安で一杯でしたが、親切な先生方や友人達の支えがあったお陰で大変有意義な大学生活を送ることができました。

所属していた振動システム研究室では、微動測定や卒論の作成を研究室の仲間達と協力しながら取り組みました。また様々な研究室の行事を通じて、お互いをより良く理解しながら過ごすことができたと思います。休日には研究室や建築学科で知り合った友人達と食事や遊びに行ったりすることも多く、普段とは違った会話や楽しい経験を数多くさせてもらいました。これらの経験や知り合えた仲間たちは今の私にとってかけがえのないものとなっています。

現在私は九州大学大学院に在籍しており、建築構造に関するより深い知識を身につけるため日々勉学に励んでいます。将来は建築の知識を活かし、建築分野のプロフェッショナルとして安心安全な社会づくりの一助を担いたいと考えています。



卒業式後の記念写真



**本田 優**（浅里研究室 大学院生）  
進路先：福島県庁 南会津建設事務所  
出身校：日本大学東北高等学校

高校から大学院までの9年間、ずっと自転車通学でした。風の日、雨の日や雪の日でも片道10km、気付けば地球を軽く数周するほどペダルを漕いでいたため、たくましい脚となり、ズボンがかなりきつくなっていました。

浅里研究室に配属になってからは、毎日が楽しかったです。特に4年時の初めての飲み会は、今でも印象に残っています。卒業研究は時に辛いこともありましたが、それでも毎日楽しく過ごすことができました。大学院の1年次に取り組んだインターンシップは、自分をスキルアップするには最高の環境であり、耐震診断判定用の資料作成など実践的な仕事の経験を積めたことが、現在とても役立っています。

現在は主に指導・審査関係の業務に携わっており、建築基準法と睨めっここの毎日です。県職員の業務内容は実際に配属されるまで未知の世界でしたが、周りの先輩たちに聞いたり相談したりできる職場なので、とても充実しています。今でも変わらず、職場まで自転車で通勤しています。



今の職場での様子



**高橋 寛子**（倉田研究室 学部生）  
進路先：盛岡市役所（建築技術職）  
出身校：岩手県立盛岡工業高等学校

「都会過ぎず田舎過ぎないところ」という安易な考えで工学部へ入学しましたが、工学部の環境は良く、過ごしやすいところでした。勉強や課題についていけるのかという不安もありましたが、友達と勉強したり課題を手伝ったり手伝ってもらったりして、その時は大変でしたが、今となっては大切な良い思い出です。そして、将来の選択肢を増やすために教職課程も受講しました。教職課程でしかできないことがあります、特に教育実習は、教師という立場で生徒たちを指導するという貴重な経験となりました。研究室では、楽しみもあり苦労もあり、様々な経験ができました。学問以外に学んだことがたくさんあり、それが今、仕事に活かされています。

盛岡市職員に採用され今に至りますが、自分の無力さを痛感し日々勉強する毎日です。研修では被災地へ行き、復興どころか復旧すらできていない状況を目撃にし、私たち行政がもっと頑張らなければという思いになりました。今はまだ自分にできることは少ないですが、地元の発展・被災地の復興のために市職員として一生懸命努力していきます。



卒業研究発表会の記念写真

## 北桜のもとで…日本大学工学部建築学科の思い出



**小山 遥香** (速水研究室 学部生)  
進路先: パナホーム株式会社 福島支店  
出身校: 私立尚絅学院高等学校 (宮城県)

私は女子高出身で、工学部とは真逆の環境で生活していました。昔から建築に興味があり大学は建築系に進もうと決めていましたが、私の高校では理数系への進学者が少なく、資料も少なく情報収集が大変で、入学前はとても不安でした。しかし、実際は日大工学部の建築学科は女性教員がいること、学習内容が構造やデザイン・歴史・福祉など幅広いジャンルを扱うことなど、女性が学びやすい環境が整っていて、男性が多いことを気にせず、安心して学べました。サークル活動では、アメリカンフットボール部のマネージャーを務めました。先輩との縦の繋がりだけではなく、他学科の同級生との横の繋がりもでき、色々な人たちとの出会いにも恵まれました。そして何より、部活動などで限られた時間の中で設計課題に取り組むため、自分自身をコントロールし、きちんとした生活を送ることができました。これは社会人になった今、とても役立っていることの一つです。

男女関係なくスタートラインは同じであり、むしろ男性が多い環境の方が、女性ならではの感性が活かせると思います。現在の職場でも、女性ならではの目線・提案が求められています。これからは女性社員も増えていき、近い将来もっと女性が働きやすい環境の企業が増えると思います。自分の直感を信じて、一步前に踏み出して、挑戦してみてください。どんな道を選ぶかは自分次第ですが、周りに合わせて決めてしまうのはもったいないです。「挑戦の数だけ成功するしかないですから。」と研修で学びました。現在も同期の仲間たちと日々切磋琢磨し、お互いの成長を感じながら、学生生活とはまた違う充実感の中過ごしています。



卒業設計作品展での発表



**目黒しおり** (市岡研究室 学部生)  
進路先: 株式会社村上設計事務所  
出身校: 福島県立喜多方東高等学校

工学部で私は多くの方々と出会い、たくさんのこと学びました。同じクラス、よさこいサークル、サークルの繋がりでできた他大学の友達など多くの友達に恵まれ、大学生活を謳歌していました。どちらかといえば製図は苦手な方でしたが、2年生のある日、友達に誘われ、学内で開催されていた学会の卒業設計巡回展を見にいき、「あたしこれ、やる」と漠然と思ったことから、今の自分が導かれました。3年生後期から配属された研究室での生活は、毎日が充実していました。就職活動の一環として先輩に勧められてオープンデスクに通い、自分の知識の少なさに愕然としたことや、4年生の設計課題も消化不良で終えてしまったことから、卒業設計に取り組んでも大丈夫なのかと不安になることもありました。夏休みに震災復興のシンポジウム・造園学会デザインワークショップへの参加、須賀川でのお祭りのお手伝いを通して、多くの方の話を聞く機会があり、自分の考え方方が少しづつ変わりはじめました。知識の差、考え方の違い、経験。知らないことを知っていくのがとても楽しくなりました。「考えることをやめてはダメだよ。なぜ? どうして? を常に考えてなきゃいいものはできない。」と、ある方に言われたことが今でも頭から離れません。実際には建つことのない卒業設計にも関わらず、被災者の方からは感謝の言葉を頂きました。「やっと一歩踏み出せそうだ。ありがとう」と言われ嬉しかった反面、悔しい思いが湧き上りました。実際に建つものを設計し、喜ぶ姿を見たい。あの時感じた思いを忘れず、日々勉強しながら仕事をしています。改めて「日々勉強」を教えてくれた日大に感謝しています。



須賀川での研究報告会



**高野 圭奈** (出村研究室 学部生)  
進路先: 静岡県立富岳館高等学校  
出身校: 新潟県立新潟工業高等学校

2009年から4年間、工学部でお世話になりました。初めての一人暮らしでホームシックになったこともあります。しかし、数少ない女の子の友達ができ、毎日楽しく大学で勉強をすることができました。2年生からは、幼い頃からの夢であった教員を目指して教職課程を受講しました。他の人よりも授業が多くたのですが、夢に一歩一歩近づいていると思うと苦ではありませんでした。4年になると正式に研究室に配属され、忙しい日々を送っていましたが、大好きなコンクリート関係の研究をしているだけで幸せな気分になりました。同じ学科内でも研究室に配属されてから初めて話す人もいた

りして、楽しく研究をすることができました。6月の教育実習では母校の新潟工業高校でお世話になり、懐かしい恩師と再会できて嬉しかったのと、これからどんな生徒と接するのかという不安で一杯でしたが、明るく元気な子たちが多く、体育祭を楽しんでいた生徒たちは今でも忘れられません。また、工学部で過ごした4年間も一生の宝です。

そして今、私は富士山のふもとである静岡県富士宮市の高校で建設デザイン系列の臨時講師として教鞭をとらせていただいている。環境にも慣れ、毎日楽しく過ごしています。

皆さんの中にはまだ自分が将来何をしたいかわからない人もいるかと思います。まずは興味のある仕事からでも構いませんので、調べてみることが大事です。そして、言われただけではなく、自分から動いてみてください。きっと自分の中の何かが成長します。

## 速水清孝准教授 第17回建築史学会賞受賞

この賞は、最近3カ年において公表された論文・著作・報告書などから、建築史学の発展と水準向上に寄与する優秀な個別業績に対し、毎年1点選定されるものである。

### 建築史学会賞を受賞して

速 水 清 孝

『建築家と建築士』という謎かけめいたタイトルの本で、このたび建築史学会賞をいただきました。

日が経つにつれ、また、きら星のような歴代受賞者のお名前を拝見するにつけ、「賞の栄誉を汚したのではないか?」とすら思うようになっています。この受賞はそれぐらい望外で、身に余るものでした。

本の中身は、建築の設計をする人の呼び名として代表的な建築家と建築士、この2語の差異を生んだ建築士法という法律の成立と今日に至る展開を描いたのですが、さて、果たしてこの2つの言葉、一体何が違うのか?

これは一般の方にはまず分からぬのは当然です。それどころか、当の建築界の人たちすらよく分からず、「ワケが分からん」と言いながら、とりとめのない議論をしてきました。それでも、建築家にしても建築士にしても1つの職業なり資格の名前です。それが何なのかが分かっていないのは問題ではないか。こう思ったことが研究の発端でした。

ワケの分からなくなるきざしが見えるのは、建築家たちが自身を「建築士」と呼び始めた大正初年からで、はつきりするのは、昭和25年に「建築士」が法定のものになってから。前者は100年前、後者は60年前のこと。振り返ってみれば何と、生まれたばかりの赤ん坊が還暦を迎えてしまうほど長い間、建築界の皆が口を揃えて、「ワケが分からん」と言ってきました。根の深い問題らしいことが、このことだけを見てもお分かりいただけるでしょう。

では、何が「ワケが分からん」のか?

煎じつめてみればただただ一点、「建築士法」というのが、ワケが分からん。これに尽きていました。

明治の初めに西洋から移植した「建築家」という職業の概念が、西洋と同じ形で根づかない日本。これは悲劇だ。その原因是、設計者を規定する法のあり方が西洋と違うことにあるのだ——と、なぜそうなったのかを探ることなく、ただ西洋のみを是と見て一方的に批判だけを繰り返す。こうした公平さを欠いた状態が60年ものあいだ続いていたわけです。

物事に批判はつきもの。でも批判するならまず、「建築士とは何か」くらいは万民に共有されるべきでしょう。そこでこの本ではその、昭和25年にできた建築士法はどんな理念で考案されたのかを解き明かすことを通して、「建築士とは」を書きました。

ここまで読んで、腑に落ちない方もおられるはず。それはきっと、建築士が法定のもの、というところに発する疑問でしょう。法定のものならば「建築士とは何か」は解き明かすまでもない。

確かにその通りです。ところが肝心の条文が誤読されやすく、その結果だれしもが理解を誤り、ひどくややこしい問題になっていたのです。

「そんなバカな」という言葉が口をついて出そうなウソみたいな話、それが現実に起こっていたわけで、本書にはそんなややこしくてバカな……当事者にとっては悲劇のようで、ハタ目には喜劇のような、そんな悲喜劇が描かれることになりました。草案の周囲にいた方々からの聞き取りを重ね、史料を発掘しながらややこしく絡んだ糸を解きほぐしてみると、現れてきたのは想像とは全く異なる姿でした。

そのことが分かった時はまず、「通説とはかくもいい加減なものか」とあきれ、また、オセロでもしているかのような、一手で全てをひっくり返す痛快さを覚えました。まさに研究の醍醐味を堪能した瞬間でした。60年続いた「ワケが分からん」議論は、法を欲した建築家と法を作った行政の間に横たわる、設計者が扱うべき対象の、認識の差異というボタンの掛け違いに発していました。往時建築家が携わることなく、劣悪さの象徴となっていた庶民の住宅も、適切な技術者の関与の下に造らせたい。そのことを真摯に考え作られたのがこの法だったのです。分かってみれば簡単なことでした。とはいえ、ややこしいだけについつい話が長くなり、一読をお勧めするには心苦しいものになりました。

実は長いのは、尺ばかりでなく着想からの時間についても言えて、元をたどれば大学時代から。つまりは構想四半世紀という長さでした。

ただ、考え始めた時に抱いたものと、結論として導き出したものは180度異なっています。この点、ご指導下さった先生方には不肖をお詫びするより他ないのですが、半面、長く考えるに足る問いかけをして下さったことに深く感謝するとともに、翻って今度は、自分がそうした問いかけを学生諸君にできるかどうか、自問・自戒するばかりです。



谷直樹会長より賞状を受ける筆者（左）  
建築史学会総会にて（於金沢工業大学、2013年4月20日）

# 続・日本人建築学生のインド留学記

大学院博士前期課程3年 三 浦 淳

留学を開始してから瞬く間に時は過ぎ、6ヶ月が過ぎようとしています。インド・デリーは夏というよりも猛暑と呼ぶのが相応しいほどの暑さで、連日最高気温が45°C近くの日々が続いています。

さて、今回は私がインドで行っている研究と日々の生活をお伝えいたします。私がインドで行っている研究は、インドの環境対応住宅の室内環境性能の調査です。印度、というと非常に暑い国の印象がありますが、北はヒマラヤ山脈、南西はカリブ海、南東はベンガル湾、南にはデカン高原、西にはガート砂漠等、豊かで特徴的な大陸を有しています。そして、実はこれらを反映するように印度は気候を5つの気候区分に分けることができます。暑く乾燥しているHot and dry、高い湿度を有するWarm and humid、冬は-10°C以下にもなるCold、一年を通して快適な気候を維持するTemperate、そして前述の気候区分以外のComposite、この5つが印度を構成している気候区分になります。特にHot and dry、Warm and humid、Coldの気候区分は温度、湿度等で際立った特徴が見られ、これらはその土地の建てられてきた伝統的住宅の建設時には大きな影響を与えると考えられます。また、厳しい気候条件である土地でもその土地に住む人は存在し、彼らが住むためのシェルターである住宅も同時に建てられます。住宅は住民の滞在時間が長く、リラックスできるべき空間であるが故に快適性を最大限考慮していることから、その土地の気候が設計、建築に最大限に反映されていると考えられます（写真1）。

私の研究は、上述した3つの気候区分において、感覚的に設計、建築されたと考えられる伝統的住宅を環境対応住宅と捉え、温度、湿度、風速等の室内環境性能に測定機器を用いて数値的に検証することで、それらの住宅のポテンシャルを再考するとともに、エアコン等の機械設備依存の現在の印度の住宅に対して、古来の技術やデバイスを尊重したパッシブデザインされた住宅を印度に提案することを目的としています。渡印後は文献調査を中心に行っていましたが、6月から3つの気候区分の伝統的住宅の調査に行く予定です。

しかしながら、私も毎日毎日研究しているわけではなく、週末は大学も閉まるので外に出かけたりします。最も驚くべきことは日本や欧米にも勝ると劣らないモールやショッピングが局所的に、しかしながらの数が開発されていることです。例えば、古い街並みが残るOld Delhiは牛が闊歩し、狭い路地に所狭しと並んだ店など、雑多で土着的な雰囲があり典型的な印度を連想させる一方で、デリーに近年建ち上がったAmbience Mallは清潔感あふれ、洗礼された空間が来客を迎えます。扱っている商品もブランドものばかりで、価格も日本と対して変わりがないほどです。更にデリーの南に位置する新興地域であるグルガオンでは、高級ショッピングモール、設備が完備されたアパートが爆発的に建設されており、その発展具合は目を見張るものがあります。新興国といわれる印度ですが、近年の急激な経済成長も相まって、着実に大国へと変貌を遂げつつある様を感じます。

また、デリー近郊に週末旅行に行くこともあります。亡き妃のために建てられたお墓であるタージマハルが建つアグラ、ガンジス河が流れヒンドゥー教の聖地であるバラナシ、ル・コルビュジエが都市計画を行い、現在多くの彼の建築が現存し利用されているチャンディガールなど、デリーから列車で行ける範囲にあります。近年では印度人も国内を旅行するようになり、旅先では外国人のみならず多くの印度人観光客を見ることができることからも、経済的、社会的に豊かになり、自国の文化をよりよく知ろうとする雰囲気を感じます（写真2、3）。

次回は研究報告及び印度生活の総括をしたいと思います。



写真1 デリーで建設中の住宅  
RCのスケルトンに煉瓦造の構造  
現場の足場は不安定に見える



写真2 タージマハル  
インドの世界的に有名な代表的建築  
このような撮り方がトレンドらしい



写真3 チャンディガール最高裁判所  
(ル・コルビュジエ設計)  
60年以上経った今でも使われている

## 建築設計演習Ⅰ 住宅作品見学会報告

## 住宅作品見学会に参加して

建築学科2年 川 俣 貴 史

普段あまり外出することがなく、雑誌や新聞・インターネットなどで素晴らしい建物や面白い建物などが目に留まても、実際に見に行くことはほとんどありませんでした。その私にとって、今回アーキテクトコース2年生を対象に授業（建築設計演習Ⅰ）の一環で企画された、非常勤講師の佐久間宏一先生（株エア・コーポレーション代表）が設計の住宅作品の見学会は、とても貴重な経験となりました。

通常、「素晴らしい空間」と思っても、詳しい図面を手にしながら見ることはかないません。しかし、この見学会では、図面と照合する形で実物を見ることができ、かつ、設計者自身から直接に、時にはその仕事での苦労話などを交えながらお話をうかがうことができました。ものづくりの楽しさ難しさ、そして設計に携わるやりがいを感じました。

どの住宅も、その土地の特徴や住まわれる方の意見を尊重した工夫が施されており、また、無の土地を見て完成後を細やかに想像する建築家の力に、ただただ驚かされた一日でした。この経験をこれから設計課題の中で活かしたいと思います。



集合写真

## 旧福島県尋常中学校本館保存修理工事見学会報告

## 旧福島県尋常中学校本館保存修理工事を見て

建築学科4年 只 野 雄 也

さる6月初旬、私たち日本大学工学部建築学科有志は、郡山市教育委員会文化財課のご厚意で、東日本大震災で基礎や土壁に被害を受けた「旧福島県尋常中学校本館」

（明治22年、国重要文化財）の修理工事を見学させていただきました。この秋の完成を目指すため、建物はあいにくシートで覆われてはいたものの、築124年を迎える室内に漂う時間の重みや、普段は見ることのできない小屋組の力強さにまず圧倒されました。

続いて驚いたのが、当時の材料や技術を可能な限り使う文化財修理の姿勢です。地震で割れたガラスすら捨てることなく使い、土壁の下地も地震で落ちた土を再利用したそうです。加えて、その土を使い、擬洋風建築特有の薄い土壁をまるで鏡のように塗る高い技術にも目を見張りました。こうした左官職こそ地元でまかなえたものの、近年は総じて高齢化も進み、職人不足であるとのこと。その不足が露呈したのが、歪んだ基礎を直すため建物をジャッキアップする技術者で、ここが起点となる今回の工事では、まさに「この工程が工期を左右した」とうかがい、人材育成の急務を知りました。その一方で、この震災では、直せそうな文化財級の建物の解体も進んだようです。建築の保存に対する意識を社会的に高める必要も感じた見学会となりました。



小屋組の見学

## 建築設計演習Ⅲ 建築作品見学会報告

## 建築作品見学会に参加して

建築学科3年 杉 結 加

平成25年6月1日（土）、3年次生のアーキテクトコースで希望者を募った建築作品見学会に参加しました。この見学会は、「建築設計演習Ⅲ」の設計課題である芸術家記念館と図書館に合わせて関連施設を巡るというものですが、今年は宮城県内の『感覚ミュージアム（設計：六角鬼丈；2000年・大崎市）』・『宮城県美術館（設計：前川國男；1981年・仙台市）』・『せんだいメディアテーク（設計：伊東豊雄；2000年・仙台市）』の3施設が対象となりました。一般に公開されている部分のほか、普段みる機会のない裏側の非公開部分を、三浦金作教授や施設の方に案内していただきました。『感覚ミュージアム』では、展示室の途中に外部通路をつくり、広場に面したカスケードを見せる演出や、エントランス付近の自然光を用いて虹色の光を床に映し出すトップライトの効果など、参考にしたい部分が多くみられました。『宮城県美術館』では、高低差のある連続広場空間に設置された階段とスロープとの演出や、エントランスまでのシーケンス景観とビスタなど、魅力的な多くの設計キーワードを体感できました。また、同館の非公開部分を学芸員の方に案内していただくという貴重な体験をし、課題設計に役立つ多くの知見を得ることができました。実際に「見て」「感じて」「学ぶ」見学会でしたので、参加してよかったというのが実感です。より良い設計を目指して頑張りたいと考えております。



感覚ミュージアム



宮城県美術館

## 建築施工Ⅰ 現場見学会報告

## (仮称)SHIPあすと長町新築工事現場見学会

3年次生に開講されている「建築施工Ⅰ」の一環として、毎年開催されている現場見学会を、6月15日（土）に仙台市太白区にある「(仮称) S H I P あすと長町ビル新築工事事務所」で実施しました。現場副所長から型枠・鉄筋・圧接工事の方法などの説明を受けた後、約1時間ほど、施工管理職の方々や倉持先生からの説明を受けながら見学しました。

まずは、地下にある免震ピットを見学。中央に配した減震材料となる鉛の周囲にゴムを廻らせる構造とした最新の免震装置の説明を受け、日々進化する最先端の建築技術に見入っていました。次に、施工階の3階に上がり、型枠の施工状況を見学後、足場を上り4階へ。壁鉄筋組立や梁鉄筋の組立・圧接作業が行われ、その時の状況に応じてオーダーメード的に対処していく現場の実態を目の当たりにし、建物が施工される醍醐味を感じました。

質疑応答時では、工事内容だけではなく、施工管理職のやりがいや心構えなど、これから就職活動に向けた積極的な質問もみられました。参加学生一人ひとりが自分の将来と向き合う貴重な有意義な機会となりました（文責：編集係・市岡）。



足場の上で鉄筋組立を見学

## 学術論文

\*届け出があった記事を掲載

- Dinh Kien NGUYEN, Buntara Sthenly GAN and Thi Ha LE;"Dynamic Response of Non-uniform Functionally Graded Beams Subjected to a Variable Speed Moving Load", Journal of Computational Science and Technology, The Japan Society of Mechanical Engineers, Vol.7, No.1, pp.12-27, Jan.2013
- 十文字拓也, 斎藤俊克, 出村克宣;「長さの異なるビニロン短纖維を併用した纖維補強ポーラスコンクリートの圧縮及び曲げ性状」, セメント・コンクリート論文集, No.66, pp.537-544, Feb. 2013
- Sanjay PAREEK, 遠藤正美, 鈴木裕介;「鋼製永久型枠を用いたRC造梁部材の寸法効果に関する研究」, 日本大学工学部紀要, 第54巻第2号, pp.1-6, Mar.2013
- Sanjay PAREEK, 大平旭洋;「ネットワーク及び補修剤を用いた自己修復システムにおけるコンクリートの自己修復性能についての検討」, 日本大学工学部紀要, 第54巻第2号, pp.7-12, Mar.2013
- 鈴木裕介, 藤倉裕介, 木村健一, 李有震, パリーク サンジェイ, 荒木慶一;「放射性セシウム汚染土体積線源を用いた円筒コンクリート容器のγ線遮蔽性能評価」, コンクリート工学論文集 Vol.24, No.2, pp.43-52, June 2013
- 飯野将広, 渡辺宗幸, 斎藤俊克, 出村克宣;「カルシウム系防せい剤を用いた鉄筋防せいペーストおよび断面修復モルタルの防せい効果」, 日本建築学会技術報告集, Vol.19, No.42, pp.403-408, June 2013

## 発表論文

\*届け出があった記事を掲載

### ■日本建築学会東北支部研究報告会

- 戦後福島県に建設された建築作品の傾向
- 草創期のレーモンド事務所の設計スタッフについて
- 鉄骨屋根トラスを有する既存RC造体育館の弾性振動解析
- 移動荷重を受ける変断面・FGM梁の研究
- 結合剤を纖維補強セメントモルタルとした纖維補強ポーラスコンクリートの凍結融解抵抗性
- エマルジョン処理竹補強セメントモルタルの凍結融解抵抗性
- エマルジョン処理竹補強セメントモルタルの曲げ性状に及ぼす養生方法の影響
- カルシウム系防せい剤を用いた断面修復材料のマクロセル腐食抑制効果
- Cu-Al-Mn超弾性合金及びネットワークを用いたRC梁における自己修復機能の向上に関する検討
- 各種ポリマーセメント系接着剤を用いたCFRPとコンクリートの付着性能に及ぼす影響
- Cu-Al-Mn超弾性合金及びネットワークを用いたRC梁における自己修復機能の向上に関する検討
- 速水清孝  
○小室加津彦, 速水清孝
- 日隈宏法, 浅里和茂, 千葉正裕, 日比野巧  
○遠山貴嗣, GAN BUNTARA
- 十文字拓也, 斎藤俊克, 出村克宣  
○八木将太郎, 斎藤俊克, 出村克宣
- 斎藤俊克, 八木将太郎, 出村克宣  
○飯野将広, 渡辺宗幸, 斎藤俊克, 出村克宣
- 三浦裕騎, Sanjay PAREEK, 荒木慶一, Kshitij Shrestha, 大平旭洋  
○安藤祐太郎, 鈴木裕介, Sanjay PAREEK

### ■4th ECCOMAS Thematic Conference on Computational Methods in Structural Dynamics and Earthquake Engineering

- Theoretical Study on the Reduction and Recovering Method
- Finite Element Formulation for an Arch Structure formed by using built-up Beams Element
- 日時：平成25年6月12～14日 会場：Kos Island, Greece  
Mitsuharu Kurata, Buntara S. Gan and Eiji Nouchi
- Eiji Nouchi, Buntara S. Gan and Mitsuharu Kurata

■渡部和生非常勤講師が設計した作品「コートロレール・にしづぼ診察所」が、日本医療福祉建築協会2013年1月号に掲載された。また、「長岡市立東中学校」が、日本建築学会作品選集2013と公共建築2013年4月（No.204）号に掲載された。

■浦部准教授は、農村計画学会大震災復興特別委員会2012年度版報告書に「福島県における仮設期から復興に向けた住環境形成への取り組み」と題して寄稿した。

■土方准教授は、4月4日、福島県より、福島県総合計画審議会委員を委嘱された。

■速水准教授は、4月20日、金沢工業大学にて開催された建築史学会総会にて、建築史学会より、著書『建築家と建築士—法と住宅をめぐる百年（東京大学出版会2011）』に対し、第17回建築史学会賞を受賞された（詳細はp 8参照）。

■若井教授は、4月26日、福島県より福島県開発審査会委員長を委嘱され、委員長に選出された。

■日本建築学会東北支部平成25年度役員に、代議員三浦教授、常議員日比野助教が当選された。

■土方准教授と浦部准教授は、5月2日、富岡町より、富岡町まちづくり検討委員会を委嘱された。また土方准教授は委員長に選出された。

■市岡講師は、5月22日、福島県より福島県公共事業評価審議会委員を再度委嘱された。

■濱田教授と土方准教授、及び濱田研究室、土方研究室は、白河市が5月22日～6月11日に実施した交通社会実験の企画運営及び調査に参画した。

■水野谷悌子研究員（若井研）は、5月27日、白河市より「しらかわ歴史回廊事業懇談会」の委員に推挙された。

■松井准教授と土方准教授は、5月27日、須賀川市より、須賀川市民交流センター整備事業基本設計業務プロポーザル競技審査委員を委嘱された。

## 教室ニュース

■浅里教授は、5月31日、福島県より福島県西庁舎耐震改修基本計画・実施設計等業務公募型プロポーザル審査委員会委員を委嘱され、副委員長に互選された。

■三浦敏伸非常勤講師が代表を務めるレーモンド設計事務所が設計した作品「守谷市立守谷小学校」が、新建築2013年6月号に掲載された。

■若井教授は、6月3日、郡山市で開催された福島県デザイン振興会の年次総会において、「東日本大震災から学ぶ地域のデザイン力」と題して講演された。

■浦部准教授は、6月6日、日本大学工学

部にて行われた、「福島県発の災害に強く自立共生が可能な住環境の創成に関する研究」に関する報告会にて、「パッシブデザインコンセプトに基づく住環境デザインの確立」と題して講演し、パネルディスカッションにも参加した。

■遠藤一成君と山本彰則君（浦部研・4年）が、6月6日、吹田市・吹田歴史文化まちづくり協会主催、「これから浜屋敷」～古民家を生かしたこれからのまちづくり事業提案～のアイデア部門において優秀賞を受賞した。

■浦部准教授と浦部研究室が計画・設計に関わったプロジェクト「KAMA I SHI の箱」（岩手県釜石市の復興まちづくりハウス）が、6月7日、平成25年度日本ログハウス協会建築コンテストで軸組構法奨励賞を受賞した。

■6月7日、本学科学生等を対象とした福島県安積歴史資料館（郡山市）の修復工事現場見学会が開催され、4年次生10名が参加した（p 10報告記事参照のこと）。

■若井教授は、6月12日、静岡県立島田工業高等学校より建築科の生徒80名（2～3年）に対する出前講座を依頼され、「建築の魅力としごと」と題して講演を行った。

■6月15日、建築施工Iの一環として、あすと長町新築工事現場（仙台市）の見学会が開催され、受講生37名が参加した（p 10報告記事参照のこと）。

## 建築学教室教員名簿

平成25年7月1日現在

## ■専任教員

教	授	構	造	16号館	1階	106	(956-8734)
教	授	用	学	16号館	2階	204	(956-8732)
教	授	造	学	16号館	2階	205	(956-8733)
教	授	材	画	9号館	1階	114	(956-8740)
教	授	境	法	16号館	3階	310	(956-8752)
教	授	工	ン	45号館	2階	207	(956-8753)
教	授	料	画	9号館	3階	311	(956-8749)
教	授	境	造	45号館	3階	301	(956-8750)
教	授	工	史	9号館	3階	309	(956-8743)
教	授	料	学	16号館	2階	207	(956-8744)
教	授	境	画	9号館	3階	310	(956-8872)
教	授	工	造	9号館	1階	102	(956-8747)
教	授	料	史	45号館	3階	304	(956-8742)
教	授	境	学	16号館	2階	206	(956-8735)
教	授	工	画	45号館	2階	205	(956-8751)
教	授	料	造	45号館	3階	305	(956-8746)
教	授	境	画	9号館	3階	308	(956-8737)
教	授	工	史	9号館	1階	114	(956-8740)
教	授	料	驗	16号館	2階	205	(956-8733)
准	任	構	學				
准	任	力	工				
准	任	力	料				
准	任	用	工				
准	任	造	學				
准	任	材	画				
准	任	境	法				
准	任	工	ン				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				
准	任	境	學				
准	任	工	画				
准	任	料	造				
准	任	境	史				
准	任	工	驗				
准	任	料	學				
准	任	境	画				
准	任	工	造				
准	任	料	史				
准	任	境	驗				
准	任	工	學				
准	任	料	画				
准	任	境	造				
准	任	工	史				
准	任	料	驗				